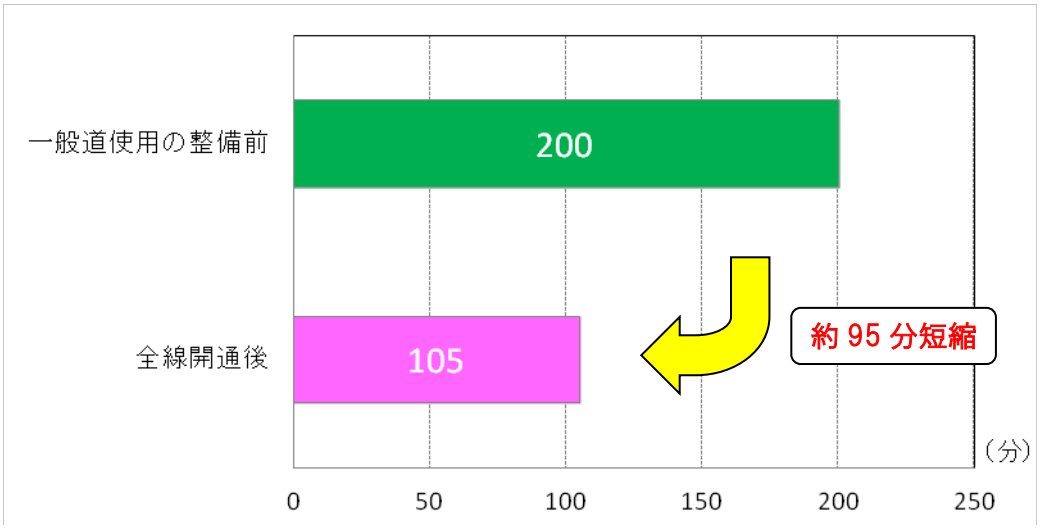
参 考 4

整備効果

1）都市間連携の強化

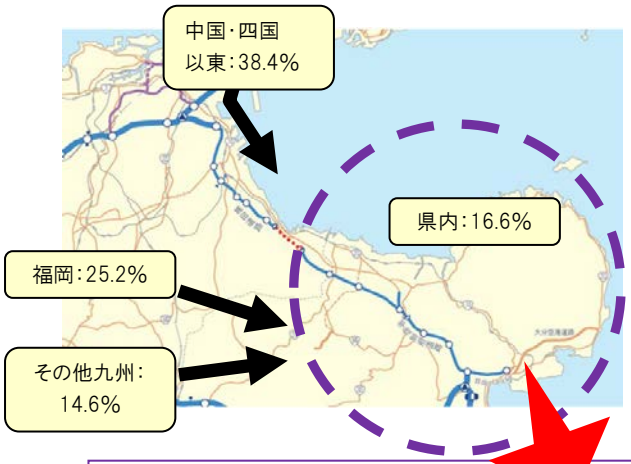
東九州自動車道が北九州から大分まで繋がった場合、北部九州のミッシングリンクが解消され、北九州市～大分市間の所要時間がすべて一般道路を利用した場合と比較し約95分間の短縮となり、福岡、北九州、大分都市圏の連携軸が強化され、更に東九州域を中心に地域交流が活発になることが期待されます。

北九州市～大分市間　時間短縮



2）観光支援

大分県北部の8市町村のエリアで展開されている、「豊の国千年ロマン観光圏」は、「神代」～「昭和」の時を体感できる地域であり、国宝の「宇佐神宮」、日本を代表する温泉地「別府温泉」などが位置しており、バス・自家用車を利用した観光客が大半を占めています。東九州自動車道が繋がった場合、時間短縮及び、アクセス向上により本州方面から東九州地域に向けた観光客数の増加がますます期待されます。



■大分県観光客の交通手段

	自家用車	観光バス	レンタカー	その他
大分県までの交通手段	67.7%	8.9%	6.2%	22.4%
大分県内の交通手段	79.0%	7.5%	6.0%	2.3%

出典：平成 25 年度大分県観光実態調査報告書
※複数回答可。少数回答（路線バス・タクシー等）は省略

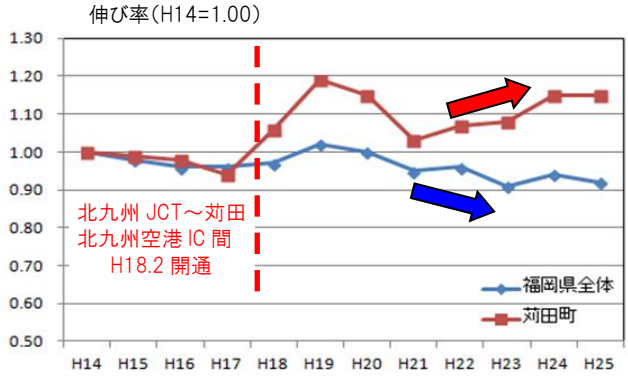
東九州自動車道については、北九州、大分の都市圏を結ぶ東九州軸として、生活・文化・産業・観光等における多様な交流を促進する窓口になるものと考えられる。
（豊の国千年ロマン観光圏整備計画より抜粋）

3）企業の誘致と雇用の創出

東九州自動車道沿線では、重要港湾中津港周辺の自動車関連企業の新規立地をはじめ、各エリアにおいても企業誘致計画が進められており、誘致により地域産業が発展し、雇用の創出の促進が期待されます。

なお、福岡県苅田町では、東九州自動車道（北九州JCT～苅田北九州空港IC間）の開通に合わせて自動車工場が立地し、製造業事業者数の増加がみられました。

■自動車産業進出による製造業従事者数（苅田町）の変化



統計：工業統計調査結果

（大分県商工労働部企業立地推進課のコメント）

東九州道の開通は、沿線の工業団地・工業用地に、厳しい部品供給管理をしている自動車産業を誘致するには大きな応援になると思います。

また、大分流通業務団地は大分県の物流・商流・情報交流の一大拠点であり、東九州を整備することは、北九州方面の物流ネットワークが形成されるので、さらなる企業進出が期待できます。

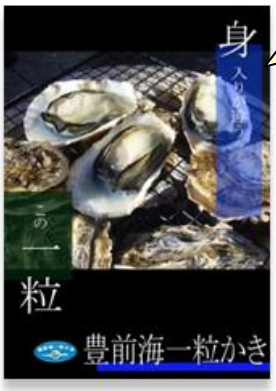
4）農水産物の流通利便性の向上

開通区間の沿線付近では、地域特性を活かした農水産物（豊前海一粒かき等）の産地が点在し、地域ブランドの浸透を展開中。

東九州自動車道が繋がった場合、時間短縮や荷傷みの低減等の効果が期待され、本州方面への市場拡大に寄与します。また、アクセスが向上することにより沿線地域来訪者の増加がますます期待されます。

■沿線の主な特産品

資料：大分県・各市町村HPより



（豊築漁業組合のコメント）
現在、福岡や下関からのお客様が多く、下関から１時間半かかるが、東九州道が供用すると時間短縮になり、より遠くから訪れてもらえるようになることを期待しています。

（大分県漁業組合のコメント）
中津の鱧料理は、京都と同じ位有名で、古くから名産品です。
地元で獲れる鱧が少ない冬場に、東九州道の供用により宮崎や鹿児島から鮮度の高い鱧を入荷しやすくなることが期待できます。

5)走行時間等の短縮

今後、椎田南IC～豊前ICが開通すれば、椎田南ICから一般国道 10 号を経由して豊前ICに行かれる場合に比べ、約 10 分の時間短縮が図られます。

また、一部の交通量が転換されるため、一般道の交差点等で渋滞緩和や交通安全に寄与します。

○繁忙期(ゴールデンウィーク)の混雑状況

・東九州自動車道は、昨年度末の豊前IC～宇佐IC及び新直轄区間の佐伯IC～蒲江IC間の新規開通により、当該区間を除き、北九州市から宮崎市が開通しました。その結果、今回のゴールデンウィークでは、高速をご利用されたお客様のうち、5/3～5/6 で約8，400台/日(※)のお客様が、当該区間を一般道を介して利用されました。また、当該区間の付近で一般道を含めた交通混雑がみられ、5/3～5/5 に、椎田南IC付近の一般国道10号(南行き)の中村交差点から、東九州自動車道の本線にわたり6～9km程度の渋滞が発生しました。(※)非ETC車は含まれておりません。

・当該区間が開通することにより、一般道を介すことなく連続して東九州自動車道の利用が可能となり、一般道の混雑緩和に寄与することが期待されます。